じゃりみち

••••被 災 地 支 援 情 報••••

第 121 号　　発行日 2021.7.20

被災地 NGO 協働センター
〒 652 - 0801　神戸市兵庫区中道通 2 - 1 - 10
TEL:078-574-0701　　FAX:078-574-0702
HP:http://ngo-kyodo.org/
Facebook:https://www.facebook.com/KOBE1.17NGO
E-mail:info@ngo-kyodo.org
口座番号 :01180-6-68556(郵便振替)

2021 年度基本方針：コロナも災害「最後の一人まで」

2020 年度は新型コロナウイルスが猛威をふるい、多くの場面でこれまでとは違った対応を取らざるを得なくなりました。日常生活が一変し、急激に困難な状況へと陥った方々も数多くいらっしゃいます。

そんな中、2020 年 7 月には大規模な水害によって、多くの地域で甚大な被害が発生しましたが、新型コロナウイルスの影響もあり、外部から、とりわけ県外からのボランティアは厳しく制限をされました。各地に設置された災害ボランティアセンターも被災した地域の属する県内限定の募集というところがほとんどでした。

その結果、過去の災害に比べて家の片付け作業などが遅れてしまったことは否めないでしょう。過去の災害では、ボランティアが家を片付けていくことで、災害当初は諦めていたけど、再び同じ家をリフォームして住むという希望が湧いてきたという人もいました。ところが、今回はなかなか家の片付けが進まず、諦めから希望へと被災者の気持ちが移り変わっていくことが少なくなってしまいました。

果たして本当に地域の力だけで復旧・復興が進めていけるのか。もう一度、しっかりと考え必要な支援が外部から受け入れられるように検討していく必要があります。

その後、実施された「GOTO キャンペーン」では、多くの県外ナンバーの車が訪れているのに、災害ボランティアの人は受け入れてもらえない、という嘆きも多くの方からお聞きしました。一方で、私たちの支援活動では出会いませんでしたが、県外からのボランティアから感染が広がるのではないか、という被災者がいたということも報道等されました。どうやって、こういった被災者の方の不安を軽減し、災害ボランティアの力を発揮できるのかを考えなければなりません。

そこで、考え方の発想を転換していくことが必要です。災害ボランティアは、ウイルスを運んでくるキャリアーとしてばかり見るのではなく、感染の拡大を防ぐための仲間だと捉えていくことが必要なのではないかと感じます。

昨年の水害では、各地に災害ボランティアセンターが設置されましたが、感染対策を実施するために手指消毒、パーテーションの設置、体温の計測など、普段の災害ボランティアセンターの運営では不要だったプロセスが大変増えました。そのため、災害ボランティアセンターを運営するために必要な人数も増加したのです。ただでさえ、外部からの支援が限定している中、ボランティアセンターの運営自体も必要人員が増加し、やりくりに苦労することが多かったのではないかと思います。

例えば、イタリアでは新型コロナウイルスによる感染症対策に数多くのボランティアが参加し、活躍しています。赤十字を通じて活動したボランティアだけでも４万４千人になります。その結果、感染の拡大や死者の減少を実現していったのです。

日本では、過去の災害に対し、多くのボランティアが対応してきました。東日本大震災は、複合災害となりましたが、避難所にボランティアが駆けつけるなど、多くの支援によって被災者が救われました。災害が巨大になればなるほど、ボランティアの力は重要になるとも言えるのではないでしょうか？

新型コロナウイルスによる感染症流行下での自然災害も、まさに複合災害であるといえます。全国的に感染が拡大する中で、災害が起これば、その時こそ感染を防ぐための対策のボランティアも含めて、多くの人たちが参加することが重要なのではないでしょうか。

もちろん、誰もが参加するためには、必要な条件をさらに検討していく必要があります。しかし、検討の方向性として、ボランティアを制限する方向での議論ではなく、どのようにボランティアを受け入れることができるのか、仮に災害ボランティアセンターでは難しいのであれば、別の方策はないのかを議論しなければなりません。

たった一人を救う、最後の一人までを救うためには、ボランティアの力が必要不可欠なのです。そのためのボランティアのあり方を追求し続けていきたいと思います。（頼政良太）

2020 年 7 月豪雨災害の支援活動について

当センターでは、2020 年 7 月豪雨の支援活動を継続しています。特に、「日本版 POSKO」支援に力をいれ、今後の災害支援のモデルとなるような記録を残したいと考えています。引き続きのご支援をよろしくお願いします。

POSKO 支援について詳しくは Facebook を参照
https://www.facebook.com/KOBE1.17NGO

下記ページで POSKO 支援について記事が紹介されています。（公益社団法人 CivicForce）
https://www.civic-force.org/activity/activity-2350.php

ご寄付のお願い

当センターでは、阪神・淡路大震災以来、被災地支援活動を継続して参りましたが、コロナ禍の影響もあり財政的に団体継続がこのままでは難しい状況となっております。大変恐縮ですが、どうか当団体の被災地支援活動継続のため、多くの方からご寄付をいただけますと幸いです。特に、安定した活動のためのマンスリーサポーターを募集しています。HP よりご寄付をいただくことが可能です。どうぞよろしくお願いします。

http://ngo-kyodo.org/donationandmembership/

2020 年度事業報告

1. 寺子屋事業
2020 年度は阪神・淡路大震災 25 年を経て「再び最後の一人まで」と題した寺子屋を型コロナウイルスの影響もあり、オンラインで実施した。しかし、日程の調整等が難しく 1 回の開催にとどまってしまった。

2. まけないぞう事業
　岩手県中心に「まけないぞう」事業を展開。現在の作り手の人数は 43 人となりました。コロナ禍により年に 3 ～ 4 回の訪問が一度きりになりました。イベントはほとんど中止となり、販促につなげることが難しい状況でした。
　東日本大震災の被災地は 10 年目を迎えました。3 月 11 日当日を目前に宮城県沖を震源とするマグニチュード 4.9 の地震が発生しました。10 年前と同じ 3 月 9 日でした。そのことに合わせ、3 月 11 日直前ということもあり、当時のことを思い出し、フラッシュバックする人もいました。10 年経過し、ハード面では整ってきたように感じますが、心の傷はいまだ癒えることはありません。
　また、コロナ禍により人と人とのお付き合いができないので、再建した新しい場所でのコミュニティづくりが課題です。作り手さんの中には、「モノを作っていると、何も考えずに夢中になって癒されました。」、また「裁縫は苦手だけれど、みなさんに支えられて作ることができました。震災でたくさんのものを失ったけれど、みなさんからたくさんのものを得ることができました。」と話してくれ、モノづくりを通して、被災者の心のケアにつながっているとあらためて実感しました。
　また、まけないぞうの制作のために当時から一緒に活動してきた「ふきのとうの会」の代表は「この震災でボランティアが初めてで、わからないこともたくさんあったけれど、遠野でボランティアの芽が開花したと思います。初めてのボランティア活動で何もわからなかったけれど、まけないぞうやつるしびなの活動を通して、みなさんからたくさんのことを教えてもらった」と話してくれました。まけないぞうを通して、ボランティアのきっかけにもなりました。
　7 月に発生した 7 月豪雨災害では、熊本を中心にまけないぞうを被災者のみなさんにお届けしました。まけないぞうを通して、モノではなく被災地からのメッセージとして、元気や勇気を届けることができました。そして、POSKO 支援をしているリーダーの方から「まけないぞうさんのように、人を元気にしてくれるようなモノをここでも作って行きたいと思います。それこそ、まけないぞう！ですね」と話してくれました。現在もモノづくりに専念されています。

・2020 年度実績 :1,145　頭出荷（うち子ぞう・親子ぞう・リングぞうは 210 頭）
・2020 年度 3 月末現在までの累計約 28 万頭

3. 災害救援事業
1) 国内災害に関する救援・復興・提言活動
(A) 災害発生時の対応
7 月に発生した豪雨災害で大きな被害を受けた熊本県人吉市や球磨村、八代市、芦北町、大分県日田市等、九州各地での災害支援を実施した。新型コロナウイルスの影響もあったが、当センターでは独自の基準を設け、被災地入りして支援を実施した。熊本県人吉市では、POSKO（インドネシアの災害時の拠点）のような小さな団体を支援する活動を実施（公益社団法人 CivicForce やコープこうべの支援を受けた）。さらに、地元団体であるアーキレスキュー人吉球磨の支援を実施している（日本財団の助成金を活用）。八代市では、以前から連携している「コミサポひろしま」と連携し活動した。大分県日田市では、NPO 法人リエラの活動をサポートした（赤い羽根共同募金の助成金を活用）。3 月には、活動報告会も実施した。

(B) 復興支援活動
東日本大震災支援は継続。まけないぞう事業は引き続き、神戸からのサポート体制を継続した。＊まけないぞうの記録はまけないぞう事業の項を参照。
平成 30 年 7 月豪雨災害の被災地である広島県坂町については、兵庫県立大学減災復興政策研究科災害支援チームとの連携しつつ、アルバイトを雇用し復興住宅や自宅再建をした方への個別訪問を行なった。さらに、坂町の西側地区の住民協の方々と協力し、防災啓発のための動画作成を実施した。(WAM 助成金を活用)
熊本地震の被災地では、丸 5 年に向けた活動を実施していく予定であったが、新型コロナウイルスの影響もあり、延期している。

(C) 将来の巨大災害に備えて
・静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練
　2020 年度で第 16 回目となる東海地震に備えた「静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練」に WG のメンバーとして参加予定であったが、新型コロナウイルスの影響で訓練が延期された。
・ひょうごボランタリープラザ「第 2 回大規模災害を想定した災害ボランティア連携訓練」への参画
　2020 年度も、ひょうごボランタリープラザが実施する「災害ボランティア訓練」に企画段階から参画し、講師等を担当した。

D) 新型コロナウイルスに対して
・ひょうご・みんなで支え合い基金への参画
実行委員の一員として、会議への参加、イベントの企画等を実施した。
・新型コロナウイルスの影響で困窮している人への支援
公益社団法人 CivicForce を通じて寄付いただいた物資を困窮する方々の支援をしている団体へ提供した。提供物資はシャンプーとトリートメント、12 団体へ 1200 本を提供した。
・コープこうべと契約
新型コロナウイルス等に対応するため、コープこうべと物資提供に関する覚書をかわした。

2) 海外災害に対する緊急救援活動とその後の復興へつなげる支援活動
海外の災害時には、CODE 海外災害援助市民センターをサポートする予定であったが、今年度はコロナ禍のため海外での災害支援は行えなかった。

4. 提言・ネットワーク事業
(A) 最後の一人までの検証
寺子屋事業を通じて議論を深める予定であったが、新型コロナウイルスの影響もあり、オンラインを活用した一回のみにとどまった。

5. 広報事業
　会員間の連携と協働の充実を図るとともに、被災地内外の関係団体、支援者への情報発信を行った。
・ じゃりみち　3 回発行（各約 800 部）
・FB などの SNS も利用しながら情報発信を行っている。

6. その他
(A) 脱原発 24 時間リレーハンガーストライキ
　2012 年度から継続して脱原発ハンガーストライキを「原発が停止するまでやり遂げる覚悟」を持って今日まで続けてきた。

2020 年度決算

1. 一般会計	
【収入の部】	
会費収入	233,500
事業収入	3,380,546
寄付金収入	3,093,688
寄付金収入（熊本地震）	3,000
受取利息	7
当期収入合計	6,782,741
繰入金	3,466,244
前期繰越金	4,083,152
収入計	14,332,137
【支出の部】	
【スタッフ活動費】	7,928,400
【事業費】	720,667
【管理費】	3,505,895
当期支出合計	12,154,962
次期繰越金	2,177,175
支出計	14,332,137

2. 特別会計	
まけないぞう事業	
【収入の部】	
事業収入	976,703
寄付金収入	83,140
寄付金収入（東日本大震災）	17,000
貸倒引当金戻し入れ	2,200
当期収入合計	1,079,043
繰入金	3,296,027
前期繰越金	0
収入計	4,375,070
【支出の部】	
【事業費】	3,995,070
【管理費】	380,000
予備費	0
当期支出合計	4,375,070
次期繰越金	0
支出計	4,375,070

災害救援事業（2018 西日本豪雨）	
【収入の部】	
寄付金収入	23,200
助成金収入	3,047,000
事業収入	0
当期収入合計	3,070,200
前期繰越金	4,978,085
収入計	8,048,285
【支出の部】	
スタッフ活動費	0
【事業費】	1,517,018
【管理費】	290,000
【予備費】	0
当期支出合計	1,807,018
次期繰越金	6,241,267
支出計	8,048,285

災害救援事業（201908 豪雨）	
【収入の部】	
寄付金収入	20,000
助成金収入	0
事業収入	0
当期収入合計	20,000
繰入金	3,287
前期繰越金	507,813
収入計	531,100
【支出の部】	
スタッフ活動	
【事業費】	531,100
【管理費】	0
【予備費】	0
当期支出合計	531,100
次期繰越金	0
支出計	531,100

災害救援事業（2019 台風 19 号）	
【収入の部】	
寄付金収入	119,630
助成金収入	0
当期収入合計	119,630
前期繰越金	1,743,103
収入計	1,862,733
【支出の部】	
スタッフ活動費	0
【事業費】	499,393
【管理費】	190,000
【予備費】	0
当期支出合計	689,393
次期繰越金	1,173,340
支出計	1,862,733

災害救援事業（2020 年 7 月豪雨）	
【収入の部】	
寄付金収入	4,964,483
助成金収入	6,100,000
事業収入	0
当期収入合計	11,064,483
前期繰越金	0
収入計	11,064,483
【支出の部】	
スタッフ活動	2,250,000
【事業費】	5,477,600
【管理費】	560,000
【予備費】	0
当期支出合計	8,287,600
次期繰越金	2,776,883
支出計	11,064,483

2021 年度事業計画

1. 寺子屋事業
　昨年度から引き続き、「最後の一人まで」を実現するための方策について検討を深める。CODE 海外災害援助市民センターの実施する「阪神・淡路大震災 26 年企画」と連動し、国内外の災害ボランティアのあり方を通じて議論をしていきたい。オンラインを基本とし、参加者からの意見交換を基礎とした寺子屋を実施する。年 4 回程度実施。

2. まけないぞう事業
　コロナ禍により、被災地訪問や販促の機会が大幅に減少している。コロナで人との交流も減り、「コロナうつ」のような訴えをする人もいる中、まけないぞうを心の支えにしている被災者もいるので、最低限の生産にとどめ、少しでも販売が伸びるように努力する。

(A) 東日本大震災支援の継続
　現在、作り手さんは 43 人（岩手県、宮城県、 兵庫県）。まけないぞうをきっかけにできた手芸グループが、自立して毎月自分たちで交流の場を作ったので、後方でふきのとうの会のメンバーと見守っていく。作り手に対しても同時に見守りを行いながら、心のケアを行う

(B) 広報・販促に関して
　今年度の販売目標は、2500 個。コロナ禍が長引き、対面での販促などが難しい現状。東日本大震災のから 10 年を振り返りながら、新しい顧客につながるように HP、SNS などを通して広報を行う。

3. 災害救援事業
　阪神・淡路大震災や東日本大震災などの経験やこれまでのつ ながりを生かしつつ、災害時には迅速に対応できるよう、災害 が発生した地域の特性に合わせて活動を行う。特に、新型コロナウイルスの影響を考慮しながら、地元団体と連携した活動を実施する。また、これまでのつながりのある地域とは、継続して連携していく。
　2020 年 7 月豪雨災害の被災地への支援活動は、引き続き実施をしていく。特に日本版 POSKO 支援を継続し、コロナ禍でのボランティア活動や将来の災害に備えた発想の転換を勧められるようなモデルとして継続した関係を築いていく。
　また、新型コロナウイルスの影響で困窮している方などへの支援については必要に応じて取り組みを実施していく。
　海外での災害発生時には CODE 海外災害援助市民センターの 事務局をサポートする。

4. 提言（アドボカシー）・ネットワーク事業
寺子屋事業を柱にしつつ、阪神・淡路大震災以来掲げてきた「最後の一人まで」ということについて、改めて提言していく。

　＜関係団体・グループとのネットワーク＞
・しみん基金 KOBE/ 副理事長
・震災がつなぐ全国ネットワーク / 団体会員
・人と防災未来センター / 事業評価委員
・日朝兵庫友好の会 / 常任委員
　・CODE 海外災害援助市民センター / 理事
・東海地震に備えた災害ボランティアネットワーク委員会
・9 条の会ひょうご
・社会福祉法人野花会／評議委員選任委員
・おおさか災害支援ネットワーク
・伝統木造技術文化遺産準備会
・西原村 reborn ネットワーク
・全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）／避難生活改善に関する専門委員
・災害救援ボランティア活動支援関係連絡会議（兵庫県）
・神戸教育文化研究所　防災・減災部会／特別研究員
・社会福祉法人太陽の会／評議委員
・災害緊急対応アライアンス「SEMA」
・NPO 法人リエラ／理事
・一般社団法人おもやい／正会員
・NPO 法人 SKY 協働センター／監事

（その他）
　神戸大学非常勤講師（村井）／福井大学非常勤講師（村井）／神戸学院大学非常勤講師（頼政）／神戸こども専門総合学院（村井）／関西学院大学非常勤講師（村井）／日本防災士機構　防災士研修講師（村井）

5. 広報事業
(A) 通信「じゃりみち」の発行
年 3　回の発行を予定
(6 月／ 10 月／ 3 月)

(B) Facebook の利用
引き続き Facebook でも情報発信を行う

(C) メールニュースの配信
これまで通りメールニュースを配信する。
　・ハンストニュース
　・まけないぞうがつなぐ遠野物語
　・その他関連ニュース

6. その他
(A) 脱原発リレーハンストの継続
2012 年 6 月 14 日～引き続き原発がゼロになるまでリレーハンストを継続する。

(B) 財政の改善に関する取り組み
1. 助成金の申請
・真如苑　Shinjo プロジェクト
　一般向けの災害ボランティア講座企画で申請
・トヨタ財団
人材育成枠での申請を検討中

2. クラウドファンディング企画
　CODE 海外災害援助市民センターと協力し、クラウドファンディングを立ち上げるかどうかを検討している。

3. マンスリーサポーターの獲得
　クレジットカードで毎月寄付をいただく、マンスリーサポーターを増加させることを目指す。過去の寄付者一覧を洗い出しながら、継続的に寄付してくださる方を洗い出し、マンスリーサポーターの案内をお送りする。目標は 50 人。

(C) その他
基本方針に合致すると思われる活動は可能な限り取り組んでいく。

2021 年度予算

1. 一般会計	
【収入の部】	
会費収入	500,000
事業収入	2,220,000
寄付金収入	2,500,000
受取利息	10
当期収入合計	5,220,010
繰入金	7,604,607
前期繰越金	2,122,175
収入計	14,946,792
【支出の部】	
【スタッフ活動費】	7,350,000
【事業費】	2,439,982
【管理費】	3,270,000
【予備費】	10,000
拠出金	1,399,677
当期支出合計	14,469,659
次期繰越金	477,133
支出計	14,946,792

2. 特別会計	
まけないぞう事業	
【収入の部】	
事業収入	920,000
寄付金収入	100,000
貸倒引当金戻し入れ	1,000
当期収入合計	1,021,000
繰入金	2,085,823
繰入金	1,399,677
前期繰越金	0
収入計	4,506,500
【支出の部】	
【事業費】	4,176,500
【管理費】	330,000
予備費	0
当期支出合計	4,506,500
次期繰越金	0
支出計	4,506,500

災害救援事業（2018 西日本豪雨）	
【収入の部】	
寄付金収入	0
助成金収入	0
事業収入	0
当期収入合計	0
前期繰越金	6,241,267
収入計	6,241,267
【支出の部】	
スタッフ活動費	0
【事業費】	0
【管理費】	0
【予備費】	0
拠出金	6,241,267
当期支出合計	6,241,267
次期繰越金	0
支出計	6,241,267

災害救援事業（2019 台風 19 号）	
【収入の部】	
寄付金収入	0
助成金収入	0
当期収入合計	0
前期繰越金	1,363,340
収入計	1,363,340
【支出の部】	
スタッフ活動費	0
【事業費】	0
【管理費】	0
【予備費】	0
拠出金	1,363,340
当期支出合計	1,363,340
次期繰越金	0
支出計	1,363,340

災害救援事業（2020 年 7 月豪雨）	
【収入の部】	
寄付金収入	100,000
助成金収入	1,700,000
事業収入	0
当期収入合計	1,800,000
前期繰越金	2,876,883
収入計	4,676,883
【支出の部】	
スタッフ活動	1,200,000
【事業費】	198,000
【管理費】	390,000
【予備費】	0
当期支出合計	1,788,000
次期繰越金	2,888,883
支出計	4,676,883

＊詳しい会計報告は、HP をご参照ください。

ぞう通信。

第 67 号　2021.7.20

発行所：被災地 NGO 協働センター　〒652-0801 神戸市兵庫区中道通 2-1-10
TEL：078-574-0701 FAX: 078-574-0702　http://www.pure.ne.jp/~ngo

コロナ禍で迎えた 2 年目の夏。菅義偉首相は「東日本大震災からの復興を遂げた姿を世界に発信し、子どもたちに夢や感動を伝える機会になる」と語りました。10 年経ったいまも福島第一原発事故でも「原子力緊急事態宣言」は解除されていません。「復興五輪」を掲げたものの、コロナ災害によりその言葉は被災地には虚しく響く…。

先日、まけないぞうの作り手さんにタオルを送りました。数日後、まけないぞうとともに作り手さんからのお手紙が入っていました。それは以下のメッセージです。一つの手芸品が被災者のみなさんの心のケアになっていることをこの活動を通してあらためて実感しています。まけないぞうの作り手さんのつぶやき、タオルを送ってくれた人のつぶやき、まけないぞうを手にした人からこの 10 年間に頂いたつぶやきの一部を紹介します。

いつもありがとうございます。
ぞうさんたちを作っている時が心穏やかです。
季節の変わり目とコロナで体調を崩さないように！元気で会えるのを楽しみにしています。

作り手さんのつぶやき

私の心の中にはいつも海、波に流れたことは、昨日のように思い出す恐ろしい事です。ただ、ぞうさんを作っている時だけ忘れます。

梅雨の中、縫い重ねる内に、歌詞の一部のようにつぶらな瞳のかわいい子が増えていきます。だんだんに情が移って「かわいい、かわいい」と愛される子でありますように願い、形が崩れないで、お客様に届いてねと願います。23 年9月から心の穴を埋めるように熱中する…そんな時が今に至っています。

6 年経って復興は少しずつ進んでいます。ぞうさんがあることで心が折れずに過ごせます。各地で災害がおきるごとに必ず復興できることを祈っています。

支援者のつぶやき

福島県郡山市に住んでおります。東日本大震災での原発事故での放射能の影響で、一緒に住んでいた娘家族とは離れ離れとなってしまいました。様々な不安と悲しみの中、Facebook で“makenaizone”の人たちに巡りあい、どれだけ勇気づけられたか･･･。

そこで“まけないぞう”の存在を知り、それを広めることで、まさしく“生きがい”を見つけたような気分になりました。

現在、夫と共に自動車販売を営んでおり、納車の際のお客様の粗品と一緒にぞうさんをさしあげて、お客様に喜ばれております。少しでもお力になれればとわずかですがタオルをお送り致します。　（福島県より）

52 年前、伊勢湾台風のときは皆さんにお世話になりました。ささやかなご恩がえしです。（愛知県）

ぞうさん、色々種類があって本当にかわいい！胸が熱くなりました！作って頂いた方々の思いが伝わって、実家の両親、祖母、共に喜んでました。･･･小さいですが、私からもまけないぞうを広められたらと思います。（東京都）

まけないぞうの仲間たちを応援してください！

2 年目に突入したコロナ禍での夏、高齢の作り手さんたちも当然のように疲れの色が濃くなります。コロナに怯える毎日を過ごし、会いたい人にも会えない生活が続いています。そんな時にまけないぞうを作って、嫌なことも忘れ、心穏やかな時間が流れます。

10 年経ったいまやっと、終の棲家で落ち着こうと思った矢先に、コロナや地震が頻発して、新しい場所での人と人とのつながりが希薄になり、町は閑散として、閉塞感が漂っています。そんな不安な想いをしている作り手さんをみんなで支えて下さい。

コロナ禍により売れ行きがかなり厳し状況です。生産もかなり抑えているのですが、作り手さんの生きがいや心の癒しとしてのまけないぞうを細々でも作っていけるように、みなさんのご支援お待ちしています。

（作り手さんと 2021 年 3 月大槌町にて）

（冷蔵庫でみんなの手を拭います）

この 10 年間、まけないぞうを応援してくれたみなさんには心から感謝致します。被災者のみなさん、タオルを提供してくれたみなさん、購入してくれたみなさん、いろんな形で応援してくれたみなさんにこれからもまけないぞうは元気や勇気を届けて行きたいと思います。それぞれ、遠く離れた場所でもまけないぞうを通して心と心の距離は「密」です。まけないぞうを見て思いを馳せると、お互いを思い合う心が伝わってくるようです。どうぞまけないぞうをこれからも一緒に育てて下さい。よろしくお願いします。

まけないぞう 400 円

リングぞう 500 円

子ぞう 300 円

親子ぞう 700 円

今回も少量ではございますが、タオルを送らせて頂きます。被災地の皆様がどうか一日も早くより良い暮らしとなりますように。（京都より）

王子動物園のズゼの子どもの結輝の育ての親市原ぞうの国のプーリーが亡くなりました。

CODE 未来基金　丹波農業フィールドワーク
~CODE は世界と日本をつなぎます ~

CODE 未来基金のプロジェクトとして、丹波市での農業フィールドワークが始まっています。農業を通じてひとつの地域にかかわり、農村のくらしと課題、食の安全などについて地域の方と共に考える機会にしていければと考えています。丹波市市島地区の農業グループ「ムラとマチの奥丹波」のみなさんにご協力いただき、今後数か月に 1 回実施していく予定です。

農業や食は、国を問わず、生きていくうえで欠かすことのできないものであり、土地に根差した営みであり、被災地の生活再建においても重要なテーマです。また、今後の大災害を見据えて、自分たちの食べるものをどうするのかという問題を考えておくことも重要です。このフィールドワークを通じて、学生と丹波のみなさんお互いにとって良い学びや気づきのある、そして楽しい時間を共有していければと思います。

参加した学生たちのレポートも、メーリングリストや Facebook（https://www.facebook.com/NGO.CODE）で随時公開していきますので、ぜひご覧ください。

ご寄付の方法

■ 銀行振込

ゆうちょ銀行
支店名：〇九九店
（ゼロキュウキュウ）
支店番号：099
口座番号：0330579（当座）
口座名義：CODE

近畿労働金庫
支店名：神戸支店
支店番号：642
口座番号：8881040（普通）
口座名義：CODE海外災害
援助市民センター

■ 郵便振替
口座記号番号：00930-0-330579
加入者名：CODE

■ クレジットカード
CODEのHPよりご寄付いただけます
http://www.code-jp.org/cooperation/index.html

■事務局ボランティアも募集しています！

私たちと一緒に活動してくださるボランティアさんを随時募集しています！初心者の方も全く問題ありません。ボランティアでの活動を通して、NGO や市民社会、防災・減災のことも学ぶことが出来ます。やる気のある方大歓迎です。ぜひお越しください。

当センターの姉妹団体「CODE 海外災害援助市民センター」の活動にもご協力よろしくお願いします。

■編集後記

7 月になると大雨が降って各地に被害が出るのが毎年のことのようになってきました。今年も静岡県や神奈川県、島根県、広島県、鹿児島県など各地で大雨による被害が出てしまっています。最近では、予測できないような大雨が突然降ってくることもありますので、みなさまのお住まいの地域のハザードマップをもう一度確認してみてください。

この時期になると、夏祭りもそろそろ始まってくる季節ですね。長田神社では、7 月 17 日、18 日と「夏越祭」が開催されました。実はこのお祭り 1800 年続く伝統のあるお祭りだそうですが、2 日間とも晴れたのは、1800 年のうち、3 回だけだそうです。神社にはそんな記録が残っているんだ、という驚きと、この時期は昔から本当によく雨が降っていたということを教えてくれているようですね。

今年も新型コロナウイルスの影響で、例年通りとはいかないですが、夏のお祭りや行楽をできる範囲で楽しんでいきたいですね。災害のことも少し用心して、気をつけながらお過ごしください。（頼政良太）

■入金・カンパのお願い

被災地 NGO 協働センターでは、会員を随時募集しています。普段なかなか活動にご参加できない方でも賛助会員等で活動に間接的にご参加いただくことが出来ます。活動カンパ、事務局カンパも随時受け付けています。下記の振込先によろしくお願い致します。

★団体会員	年会費￥１０，０００	×	１口以上
★個人会員	年会費￥３，０００	×	１口以上
☆団体賛助会員	年会費￥１０，０００	×	１口以上
☆個人賛助会員	年会費￥３，０００	×	１口以上
☆自由選択会員	年会費￥　任意の額		

■郵便振替　加入者名：被災地 NGO 協働センター
口座番号：０１１８０－６－６８５５６

■ゆうちょ銀行
支店番号：一一九（イチイチキュウ）支店／店番：119
当座 0068556 ／受取人名：ヒサイチ NGO キョウドウセンター

■クレジットカードでのご寄付
クレジットカードでも会費やご寄付をしていただくことができます。下記 URL もしくは右の QR コードからお願いします。
https://congrant.com/project/ngokobe/605